

蘇通長江公路大橋

Bridges of the World

中国・蘇州／南通



中国・2008年発行

蘇通長江公路大橋は、略称を蘇通大橋とも言い、長江（揚子江）の下流部を渡って江蘇省の蘇州市と南通市を結ぶ橋で、2008年6月に開通しました。このあたりの川幅はおよそ6 kmあり、全橋長は8148mです。高速道路としての延長は32.4kmに達します。幅員は34mで、高速仕様の6車線を持っています。

この橋の最大の特徴は、主橋梁部である斜張橋の中央スパン長が1088mあり、斜張橋としては世界で初めて1000m超えを実現したことです。斜張橋部の側構造は全長が500mですが、300m、100m、100mの間隔で建てられた橋脚によって支えられています。

この橋が完成するまでの世界最長の斜張橋は、しまなみ海道の多々羅大橋(1999年完成)で、最大スパンは890mでした。そして現在世界最長の斜張橋はロシア・ウラジオストクに2012年に完成したルースキー島連絡橋です。

長江には1日2000隻以上の船が航行しており、最大級の船は5万トンにもなりますので、主航路は幅が900m、高さ60m以上の空間を確保する必要がありました。

高さが300mもある塔の基礎は、いわゆる多柱式基礎で、杭径2.5~2.8m、長さ120mの場所打杭が1塔あたり131本建てられています。

設計、施工にあたっては、強い風、速い流れなどに対する対策が求められました。設計は中国の研究機関と設計会社の合同チームで行われ、現場工事は中国の会社が行いましたが、技術顧問として日本の専門家が招かれ、設計の審査がデンマークと日本の設計会社に委託され、施工管理に日本の会社が参画しました。

この道路の開通によって上海から南通までの所要時間は4時間から1時間半に短縮され、大きな経済効果が期待されています。高速道路の建設費はおよそ1160億円で、3分の2近くを銀行から借入れ、料金収入によっておよそ20年で償還することになっています。

長江への架橋は、「自力更生」のスローガンのもとで1968年に建設された南京長江大橋より下流ではほとんど進みませんでした。今世紀になってまさに架橋ブームが到来、今では10橋ほどが完成しています。



撮影：芦見忠志氏